



THE MAGIC OF ROTARY



2024-2025年度 門崎 由幸会長

第3045回 例会  
2025. 1. 23

会長あいさつ

週報 No.2279  
発行 2025年 2月6日

2024-2025年度  
会長 門崎 由幸  
幹事 齋藤 哲雄  
副会長 坂本 忠光  
副幹事 大木 崇寛  
編集責任者・公共イメージ向上委員会  
委員長 丹井 亮一

ゲスト  
上尾伊奈資源循環組合  
局長 林田 史浩様

行事予定  
2月13日 卓話「上尾市の  
平和事業について」  
上尾市 市民生活部  
市民協働推進課

2月20日 卓話「平和について」  
上尾市青少年育成推進員  
協議会 大谷内久美子様

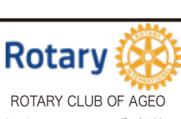
2月27日 1Mに振替  
(例会場・時間変更)  
桶川市民ホール「響の森」

皆さん、こんにちは。本日もご出席いただきありがとうございます。  
早速ですが今朝も福島で地震があり、ここ数日、常に地震があるように感じます。先週1月17日、30年前のこの日の、午前5時46分に阪神淡路大震災が発生しました。災害関連死も含め6434人が亡くなりました。発生から30年となった今年1月17日、神戸市中央区の公園「東遊園地」には、犠牲者を悼む燈籠・キャンドルが『1.17』や『よりそう』という文字の形に並べられ、地震が発生した午前5時46分には訪れた人たちが黙とうを捧げました。神戸市によると追悼の集いに訪れた人は7万5千人で、去年に比べ2万5千人多かったそうです。この日、各地で追悼行事や当時の体験を語り継ぐ会などが行われ、震災の記憶を次の世代に伝える取り組みが一日を通して続けられました。

30年前、阪神淡路大震災が発生した時、私は27歳でした。上尾青年会議所に入会した翌年で、1月は毎年京都会議が開催され、初めての京都会議になるはずでしたが中止になりました。1995年は日本青年会議所に出向しており、規則拡大委員会・島村副委員長のカーン持ちで出向したつもりでしたが、その小委員会ではなく、関西から出向している副委員長の小委員会でありました。わからないことばかりでしたが、工夫をして勉強をさせていただき貴重な経験となりました。

21年前、2004年（平成16年）10月23日（土）17時56分に新潟中越地震が発生しました。当時私は理事長予定者で、メンバー数人が多少の物資を持って新潟に行きました。なんの情報もなく、なんとか到着、さまざまな現地の情報を共有し、何が足りないか、またどこに必要なのか連絡を取りあい、行政や各団体に協力を仰ぎ対応しました。私も現地に行くつもりでしたが、理事長予定者だからということで待機になり、発生から3日間事務局に張り付いていました。その間、さまざまな所から連絡が入り、現地へのルートや足りない物資についての問い合わせがたくさんありました。現地に向かったメンバーも3日後に帰ってきました。今振り返ると、メンバーが無事に帰ってこれたのが奇跡だったのかなと思います。

14年前、2011年3月11日には、14時46分に東日本大震災が発生しました。地震直後、私は川越のマンスヨンの改修の打合せをしていまし



たが揺れる前に地下の防火水槽から水が噴き出し、おかしいなと思った直後、震度5くらいの大きな揺れが起き、マンションの住人が外に出てきました。打合せは中止になり、会社に戻るために16号バイパスを走っていたら、余震で上江橋が大きく歪むくらいに揺れていました。会社ではなく自宅に戻り、家族の安否を確認して、JCは卒業していましたが、今までの経験を生かして動かなければと考え有志で集まり、物資を集めたり、上尾駅で市民の皆さまに協力の依頼等も行い、また当時の理事長が大木崇寛会員だったので、現役とも情報を共有しました。最終的には集まった物資を久保田会員にトラックで現地へ届けていただきました。

そして昨年1月1日、16時10分に能登半島地震が発生しました。多くの道路が被害を受け、暮らしに大きな影響が出ました。今日までに主要な幹線道路はおおよそ9割が復旧しましたが、まだ片側通行の場所が多く、各地で渋滞が頻発し、復興に欠かせない砂や石などの資材の運搬を妨げる大きな原因になっています。1年が過ぎ、深刻な人手不足や進まない公費解体が、復興が進まない要因で、被災地で雇用をいかに生み出すか、「関係人口の拡大」が復興のキーワードかなと思います。

少し地震について調べましたが、1995年の阪神淡路大震災の120年前からマグニチュード7前後の地震が約20回あり、以降今日までで同程度の地震は24回発生しています。年明け、1月13日に宮崎で地震が起き、政府の地震調査委員会が南海トラフで30年以内に大規模地震が発生する可能性が約80%に引き上げました。いつ起こってもおかしくない地震に、一人一人が備え、できる対策を行うことが大切だと思います。本日もよろしくお願ひいたします。

幹事報告

齋藤 哲雄 幹事

◇2月27日（木）、第5グループのインターシテイミーティングが開催されます。13時30分点鐘、桶川市民ホール響の森で行いますので、皆様ご出席のほどよろしくお願い申し上げます。

◇2月4日（火）、イコス上尾ホールで上尾市社会福祉協議会の「地域の福祉を考える感謝の集い」で

感謝状の贈呈式があり、門崎会長が出席予定となっております。

◇2月28日（金）14時より、地区ロータリー財団の補助金セミナーが開催されます。こちらは門崎会長、私齋藤、坂本副会長、大木副幹事が出席予定です。

◇第32回チャリティゴルフ大会が4月7日（月）にプレステージで開催されると川口モータースポーツからの案内がきています。登録料は8,000円です。参加希望者がいましたら幹事までご連絡ください。

例会主題

上尾伊奈ごみ広域処理施設整備について

上尾伊奈資源循環組合 局長 林田史浩様



本日は貴重なお時間ありがとうございます。それでは私が所属している上尾伊奈資源循環組合の業務であります、ごみ広域処理施設の整備状況についてご説明させていただきます。  
まず初めにごみ処理施設整備事業の目的についてお話しいたします。現在の両市町のごみ処理施設では、上尾市の西貝塚環境センター、伊奈町のクリーンセンター、ともに稼働開始から20年以上が経過している状況です。施設の老朽化が非常に進んでいることから後継施設の検討が必要となり、ごみ処理施設の集約化による持続可能なごみ処理体制の構築を進めるとなりました。上尾市と伊奈町と一緒に業務を進めるにあたり、令和5年4月に、一部事務組合であります上尾伊奈資源循環組合を設立し、新たなごみ処理施設の建設、運営を準備していることとなります。令和6年3月に、上尾伊奈ごみ処理施設整備基本構想を策定し、ごみ処理施設の基本的な方向性や施設整備の前提条件を整理しています。この基本構想の中に4つの基本方針があります。①環境にやさしい施設、②安全、安心で、安定した施設、③地域に貢献し、住民に親しまれる施設、④経済性に優れた施設、この4つを定めており、組合と市・町と連携しまして、住民、事業者の協力を得ながら、この基本方針を基に施設整備を進めているということになります。現在、基本構想からさらに具体的な整備基本計画を策定するためにごみ処理施設建設検討委員会というものがあり、この中で調査審議を進めているというところです。検討委員会は有識者の



建設予定地の位置



位置  
北尾立部伊奈町大字小室地内  
周辺状況  
伊奈町西部に位置し、上尾市北東部（平塚）と境界を接します。西側には工業団地が広がっています。対象事業実施区域との周辺は農用地となっています。  
主要周辺道路  
北側 国道「さいたま道路線」  
東側 市道「第106号線」  
南側 都市計画道路「上尾伊奈線」（計画中）

施設の概要



■施設配置計画（案）  
① 工場棟は民家からなるべく離す  
② メインの出入口・南側の上尾伊奈線  
③ 施設から車両が入れ出ないよう誘導  
・収集車と一般持込車の搬入路は別ける  
・搬入路をそれぞれ150m以上確保

方、住民代表の方、行政職員で構成されています。本日は、この検討委員会の中で、これまでに検討された内容についてご説明させていただきます。なお建設予定地の位置は、図の中央の赤い斜線の伊奈町大字小室地内です。

まずは施設の配置計画（案）について説明します。図の中央の「A」とあるあたりが可燃物処理施設です、不燃・粗大ごみの処理施設、資源物の処理施設とストックヤード（一時保管場）が入ります。右隣りに管理棟、それから駐車場、雨水調整池等を整備する予定となっています。管理棟には、職員の事務室や見学者の受け入れを行っていくということになります。工場棟の方は、近隣への圧迫感がないように民家からなるべく離れた配置をしています。そして管理棟と工場棟とは別棟という形になっています。メインの出入口は、南側の方にこれから整備される都市計画道路上尾伊奈線側を予定しています。図では、下の方になりますが、工場棟へは「A」の方から、管理棟へは「B」の方から出入りするという形になります。パッカー車や一般車両といったゴミを持ちました。パッカー車や一般車両の動線となる搬入路は「A」のところになりますが、パッカー車と一般車両を別々に150メートル以上ずつ確保して、施設にきた車が溢れ出て周辺の道路に影響を与えないように考慮しています。そしてパッカー車について、「A」から出ると混雑が激しくなる可能性が考えられますので、「C」の県道埼玉菟藪線に左折で出られるように今検討しているところです。

続いて工場棟内の施設の計画諸元について説明します。工場棟は4つの施設からなっております。まずは「可燃物処理施設」の処理能力は1日あたり180トンを設置する予定になっています。180トンを燃やす炉は、おそらく90トン×2炉を設ける予定です。

処理方式について現時点では、焼却方式（ストーカ式）、もしくはストーカ式と乾式メタン発酵を組み合わせたメタンコンバインド方式のどちらを選択するかというところまで今絞られているところです。煙突の高さについては、景観上の観点を踏まえ59メートルとなっています。「不燃・粗大ごみ処理施設」は1日あたり27.9トン、不燃と粗大ごみを処理するものです。「資源物処理施設」は、缶類、ペットボトル類、ビン類、プラスチック類を処理し、その能力は1日あたり44.6トンです。「ストックヤード」は民間事業者に資源を委託し、紙類・布類、牛乳パック、蛍光管や小型家電を一時的に保管する場所ということになります。

続いて給水・排水計画について説明します。給水については、生活用水、プラント用水ともに水道の水を利用する予定です。排水について、生活系排水、プラント系排水ともに下水道を引いて放流する、または完全クロズドとすることで工場内で処分、処理するという形のもので採用する予定になっています。どちらが採用されるも周辺水域に影響を及ぼさない排水方法という形にもなります。

施設の受付時間、受付日については、原則として、平日月曜日から金曜日8時30分から16時30分を現時点で最大幅に設定しており、今後、市・町と調整の上、詳細を決定する形になります。以上が現在、検討委員会の方で検討された概要になります。現在行っている事業の1つを少しご紹介すると、環境影響評価の現地調査を行っています。ごみ処理施設の整備にあたり、施設建設での周辺環境への影響が低減できるよう、建設前に建設予定地周辺の状況を把握して、工事着工後にどんな影響があるかということも、調査し把握に努めています。この手続きのことを環境影響評価と言い、国や県の方で法令

で定められているということになります。現在は風光風速計で気象観測を行っているということになります。その他、大気質調査、騒音・振動調査、悪臭調査、動物・鳥類調査を行っているところです。

最後は事業スケジュールを説明します。期間としてはちょっと長い期間になりますけれども、現在、令和6年の施設整備基本計画を行い、令和7年度中の策定に向けて検討しています。先ほど説明した施設概要をこの基本計画の中に盛り込むということになります。令和8年度に事業者選定を行う予定で、建設予定地の都市計画決定8年度末になる見込みです。それから用地取得を令和9年、10年に行い、令和9年後半から設計・建設工事を行う予定となっております。令和15年度の稼働を目指して進めている

ということになります。

最後にお知らせです。組合のホームページに進捗状況を載せ、3月中旬頃には市内・町内の各地区へ途中経過を報告にお伺いする予定となっております。お時間があれば、ぜひ参加していただければと思います。以上が上尾伊奈ごみ処理施設整備の状況です。引き続き、組合の事業へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。本日はお時間をいただき誠にありがとうございました。



スマイル 林田様、卓話いただき、ありがとうございました。

出席率  
会員数 33  
出席免除 2  
出席対象者 31  
出席者数 22  
70.97%

第3046回例会 新年例会を開催しました 2025,1,30 於:旬魚旬菜 多多(ただ)



例会日 毎週木曜日12:30~13:30 事務所 〒362-0035 埼玉県上尾市仲町1-8-31 新和エクセルビル303  
例会場 上尾東武ホテル3F(コミュニティホール) TEL 048-775-7788 / FAX 048-776-9799

